

澁谷 はい。お二人が挙げられた課題等については、今後も中長期的な取組が必要となりますので、新ビジョンでは「被災地の復興完了に向けたきめ細かなサポート」を基本方向の一つに掲げ、今後も一つひとつの課題に応じた丁寧なサポートを実施していくこととしています。

新たな県政運営の基本指針 「新・宮城の将来ビジョン」

澁谷 新ビジョンでは県政運営の理念に「富県躍進」を掲げ、これまで培ってきた富県宮城の力の更なる発展を目指していくこととしています。一方で、子ども・子育て支援については、これまでの取組をより一層充実させていく必要があることから、政策推進の基本方向として、新たに「社会全体で支える宮城の子ども・子育て」を一つの柱として打ち出しています。

菅野 人口減少の本格化など、今後想定される社会の変化にも対応していかなければなりませんね。

澁谷 そうですね。人手不足や県内経済の縮小、地域コミュニティの機能低下など、地域経済・社会を取り巻く様々な課題への対応や、持続可能な地域社会づくりの取組が求められます。

日影 持続可能な開発目標（SDGs）の考えを新ビジョンに取り入れたのもそうした視点からです。

澁谷 SDGsは「誰一人取り残さない」持続可能な世界の実現に向けた世界共通の目標であり、その実現のため企業や関係団体など多様な主体の参画を求めています。このSDGsの特徴を生かし、新ビジョンにおいて宮城が目指す姿等を県民に分かりやすく共有するとともに、あらゆる主体の参画、連携・協働を促進していきます。

菅野 新ビジョンの県政運営の理念の副題「多様な主体との連携による活力ある宮城を目指して」は、まさにSDGsの考え方を具体化していますね。

澁谷 新ビジョンの策定に当たっては、タウンミーティングや若者を対象としたWEBアンケートなどを実施し、様々な立場の方の意見や考えを取り入れるプロセスを大切にしてきました。その分、調整は



大変でしたが、様々な方の想いが込められた新ビジョンができたと思っています。この新ビジョンを全庁一丸となって推進し、次の世代も安心して暮らすことができる「持続可能な未来づくり」を目指していきたいと思っています。

持続可能な農山漁村づくり 「農山漁村交流拡大プラットフォーム」

澁谷 日影さんは持続可能な農山漁村づくりに向けた取組の担当でしたね。

日影 農山漁村地域と都市部の企業や人材との連携を目指し、県内外の企業、農林漁業者・団体、個人等、様々な方が参画する「農山漁村交流拡大プラットフォーム」の運営を担当しています。

菅野 プラットフォームではどのような取組をされているのですか。

日影 例えば都市部の企業や人材と地域をつなぐオンラインイベントや、フィールドワーク、交流会などを企画・運営し、新たなネットワークの構築に取り組んでいます。

澁谷 若い世代の田園回帰への関心の高まりや、テレワークによる二拠点生活のニーズの高まりなど、時代の変化も追い風になっていますね。

日影 はい。一方で、地域の人口減少や高齢化もあり、取組を継続していくための受入体制の整備や人材育成が必要です。ただ、効果的な解決方法は簡単に見いだせるものではないので、職場の上司や同僚と日々議論を重ね、方向性を探しながら少しずつ前進しています。

菅野 多種多様な方との関わりの中で印象に残っていることなどはありますか。

日影 都市部の方と交流する中で、田舎料理を絶賛された地域の方が「普段見慣れている景色や食べ慣れているものが、特別なものを感じてもらえて誇りに思えた。」とお話されていたことです。自分の地域の良さを改めて感じていただけたことが印象的でした。また、都市部の方に地域の魅力を知ってもらい、ファンを増やすことで、地域の活性化に貢献できるという点にもとてもやりがいを感じています。



菅野 日影さんが宮城の農山漁村地域のファンの一人名ですね。お話を伺っていると、宮城を良くするんだという熱量をすごく感じます。

日影 大ファンです。地域の方や、プラットフォームに参画する熱意ある若者などと直接話をしているととても刺激を受けます。そうした方々と協力、連携して宮城の農山漁村地域を元気にしていきたいと思っています。

地域産業への波及効果が期待される 「次世代放射光施設」

澁谷 菅野さんが担当されている次世代放射光施設も様々な主体が連携して設置を進めていますよね。

菅野 次世代放射光施設の設置は、国と地域の産学官がパートナーシップを組んで、役割分担しながら整備と運用を行う新しい枠組みで進められており、国や市、大学や経済団体などと様々な面で連携・協働しています。

日影 県内産業への波及効果も大きいと聞いています。

菅野 施設周辺への研究開発拠点集積が進むことで、質の高い雇用の機会が創出され、優秀な理系人材の定着が進み、

地域経済をけん引するような企業生まれるといった好循環が期待されています。日影 澁谷さんがお話しされていた「富県宮城の力の更なる発展」に繋がっていくわけですね。

菅野 そのとおりです。ただ、放射光施設は県内企業には馴染みが薄いのが実情です。そのため、どうすれば県内企業に放射光を利用してもらえるのか、様々な機関とも連携して知恵を絞っているところです。その一つとして行っているのが、国内の既存施設での県内企業向けトライアルユースの実施です。参加した企業から「自分たちにはあまり関係ないと思っていたが、もっと放射光の知見を高めた」といったご意見をいただいた時はうれしかったですね。

澁谷 県内産業の持続的な成長の基礎づくりに携わっているわくわく感が伝わってきます。

菅野 そのほかにも施設利用者や施設見学者が来県することによる観光産業への波及効果や、身近に世界最先端の研究機関があることで子どもたちが科学技術に関心を持つきっかけにもなると思います。このように幅広い波及効果がある事業に携われることに、とてもやりがいを感じています。



(一財)光科学イノベーションセンター提供

これから宮城県職員を目指す人たちに伝えたいこと

澁谷 最後に、これから宮城県職員を目指す人たちへのメッセージをお願いします。

菅野 私は仕事をする上で「現場を知る」ということを大切にしたいと思っています。その上で、より良い宮城県を創るために、自分はどうに貢献できるのか意識して欲しいですね。

日影 業務で行き詰まり、悩むこともありますが、ともに考え、行動してくれる仲間が宮城県庁にはいます。宮城の未来とともに創る仲間をお待ちしています。

澁谷 元気な宮城県を創るため、私もお二人に負けないように頑張りたいと思います。今回はありがとうございました。

Challenger1

澁谷 彰人
平成22年度採用

趣味はホットヨガ。健康づくりのために約2年前から始めました。週2~3回教室に通っています。

Challenger2

菅野 祐輝
平成18年度採用

プライベートではソロキャンプにはまっています。県内ではよく丸森町に遊びに行きます。

Challenger3

日影 あゆ美
平成15年度採用

高校生のとき、吹奏楽部に所属。トロンボーンを演奏していました。現在はジャズに夢中です。